

河北潟干拓地と野生生物の関係

多様性のある農地が広がる河北潟干拓地、
見渡す限りの緑の大地は、
人にとっても野生生物にとっても魅力的な場所です。
本州の平野部に創造されたこの新しい大地で、
人と生物がともに暮らしていけるのは、
干拓地で農業が営まれているからです。

干拓地ができたとき

河北潟干拓地ができたとき、広大なヨシ原に多くの野鳥が飛来しました。河北潟干拓地は一時期、完全に野鳥たちの楽園となりました。干拓事業は、野生生物のすみかを奪うと同時に、野生生物の新たなすみかをつくったのです。河北潟干拓地の始まりは、人と野生との関係を象徴しています。切っても切れない関係です。

農業被害を軽減している生物

農業害獣や害虫には、必ず天敵がいます。食う食われる関係の中で、生きものの世界が成り立っているからです。農業被害をもたらす生物がいると同時に、生物が深刻な農業被害を押さえている場合もあります。例えば、猛禽類やアオサギは、野菜に食害を与えるハタネズミをよく食べることが知られています。

農業が生物を支えている

今では希少となってしまった水草やメダカなどは、農家による適正な排水路の管理があることで生き残っています。農作物が食害に遭うことも含め、農業が野生生物を支えているのです。農という営みには、常に野生生物が入り込む余地があります。排除と同時に利用を考えることで、新しい農の可能性が広がります。

グリーン・アース農地・水・環境保全組織

〒929-0328 石川県河北郡津幡町字湖東 395 Tel 076-288-4424 E-mail qa@k-kantaku.com

制作 NPO法人河北潟湖沼研究所 <http://kahokugata.sakura.ne.jp/fram.html>

河北潟干拓地

グリーン・アース農地・水・環境保全組織 発行
農業と野生生物のより良い関係をめざして



このパンフレットは、農地・水・環境向上対策の取り組みのうち、農村環境の保全・向上のための自然環境調査の成果をまとめたものです。農村環境の質的な向上を図りながら、農業と野生生物の共存の道を探っていきます。

こんな調査をおこなっています。

水生生物

(水生植物, 水生動物)

支線排水路や中央幹線排水路の生物をしらべました。

水質

(水温, pH, 溶存酸素量, 電気伝導度)

おもに支線排水路の水質を確認しました。

猛禽類

(ノスリの生息数調査など)

ノネズミを捕食する猛禽類など鳥類を確認しました。

外来植物

(オオオナモミ、イチビなど)

農地に侵入する外来植物の分布状況をしらべました。

グリーン・アース農地・水・環境保全組織とは？

農家の高齢化や農業人口の減少の中で、農地に関する共同活動の維持や高度な農村環境の保全対策の実施が難しくなっています。解決のためには、地域を構成する多様な主体が参加する仕組みが求められています。国は平成 19 年より、こうした仕組みによる地域環境を守る取り組みに対して支援を始めました。河北潟干拓地には、一部の農家以外には住民がいないため、自然保護に取り組む団体やボランティア団体などの協力により、12 団体からなるグリーン・アース河北潟が結成されました。農地・水・環境向上対策によって取り組まれてきた活動は、平成 24 年度からは農地・水・保管理支援交付金として引き継がれ、新たにグリーン・アース農地・水・環境保全組織として活動を継続しています。

- **農地、水路などの基礎的な保全活動**
(水路の草刈り・泥上げ、農道の砂利補充など)
- **農地・水・環境保全組織の取り組み**
(組織の設立、地域資源保全プランの策定など)
- **高度な農地・水の保全活動**
(水質、土壌、地域環境の保全のための取り組み)
- **農村環境保全のための活動**
(生物多様性保全、景観形成など)
- **施設の長寿命化のための活動**
(農業用排水路等の補修・更新など)

多様性のある水路

近年の水辺環境の急激な変化により、野生植物のなかでも水生植物は種の存続がむずかしくなるほど減少し、多くが絶滅危惧種として指定されています。干拓地の排水路では、ミクリやナガエミクリ、ミズアオイなどの生育が確認されました。干拓地の支線排水路は単純な構造でありながら、堤防からの浸透水の流入により清流のようにになっている水路もあれば、泥が溜まり止水域となっている場所もあります。また、草が茂り鬱蒼とした水路もあれば、水面に光が当たる明るい水路もあります。水路によって環境が異なることから、棲んでいる生きものにも違いがみられました。生きもののほとんどいない水路もありますが、メダカは 15 の支線排水路から確認されました。



ミズアオイ



ミクリ



メダカ



アズマヒキガエル



エサキアメンボ

渓流性のシマアメンボや絶滅したと思われたエサキアメンボが、干拓地の支線排水路で見つかっています。

野ネズミを食う鳥類



ノスリ



アオサギ

猛禽類の宝庫、アオサギもネズミを捕る

冬の河北潟干拓地は、猛禽類の数が圧倒的に多くなります。電柱の上によくとまっている猛禽類にノスリがいます。ネズミを主食とし、高い所から下方にいるネズミを見つけて捕まえます。毎冬、20～30羽のノスリが干拓地で確認されますが、これほどたくさんのノスリが見られる環境はなかなかありません。干拓地に生息するネズミの中でも、キャベツや根菜などをかじるハタネズミをよく捕まえるようです。ネズミを食べる猛禽類は、ノスリのほか、ケアシノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、コミミズクなどが干拓地に生息しています。



チョウゲンボウ

このほか干拓地の圃場にみられるアオサギもネズミを狙っています。鋭い嘴でネズミをとらえて丸呑みします。ネズミを食べるこれらの鳥類は、農家にとって有り難い存在です。

大切な水の循環



浸透水の流れ込む水路



沈水植物が生育する透明な水



水の流れがなくヘドロが溜まる

浸透水を含め、水の循環をよくしよう

支線排水路の水質調査からは、地点によってかなりデータにばらつきがありましたが、圃場の暗渠排水がうまくいっているかどうかで、圃場から浸み出す水の中に含まれるイオンの量が異なってくることが推察されました。暗渠が正常に働いている場合は、金属イオンやリンなどが流れにくくなりますが、暗渠が老朽化している圃場では、水中の溶存酸素が少なくなることで、イオンが取り出しやすくなっているようです。また、支線排水路によっては、堤防からの浸透水が多く、透明な水が流れていることがわかりました。一方、

水質の悪い排水路も目立ちました。全体的に水が淀んでいるところで、水質が悪い傾向がありました。健全な水循環をつくることが大切です。

圃場に広がる強雑草

1つの圃場が 60a という広さの干拓地は、雑草の管理が大変なものとなっています。草との戦いといわれる農業ですが、繁殖力の強い外来植物の存在は、いっそう農家を困らせる存在となっています。干拓地では、野生化したダイコン、オオオナモミ、ホソアオゲイトウ、アブラナ、イチビ、クサネム、チョウセンアサガオ、チクゴスズメノヒエ、オオカワヂシャ、アメリカセンダングサ、オオキンケイギク、セイタカアワダチソウ、オニノゲシ、ヒロハフウリンホオズキ、ワルナスビ、メマツヨイグサなどが圃場や農道沿いなどに目立ってみられます。圃場によっては作物が見えないほどに外来植物が繁茂しており、管理方法や管理体制の見直しが必要となっています。



オオオナモミ



セイタカアワダチソウ



ワルナスビ



ダイコン



クサネム



オオキンケイギク